

●調査レポート

埼玉県内企業 2008 年度新卒者採用と春季賃上げ見込み調査

この調査は、埼玉県内企業を対象にした「2008 年度新卒者採用（2008 年 4 月入社）採用と春季賃上げ見込み」のアンケート調査結果をまとめたものである。

調査概要

- (1) 調査時点：2008 年 2 月上旬
- (2) 調査対象：埼玉県内企業 1,019 社
- (3) 回答企業 292 社（回収率 28.7%） 製造業 167 社、非製造業 125 社
うち、有効回答 270 社（回答率 26.5%）、製造業 156 社、非製造業 114 社
- (4) 調査方法：郵送によるアンケート方式

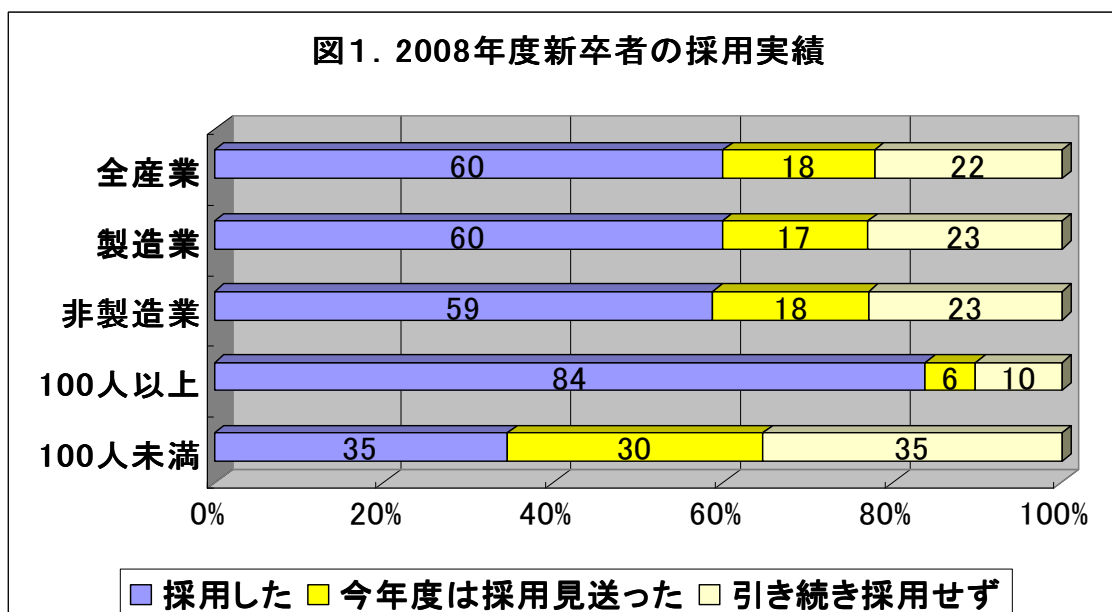
1. 2008 年度新卒者採用

(1) 採用予定

～全産業で 6 割の企業が新卒者を採用、5 年連続で半数を超す～

県内企業の 2008 年度新卒者採用（2008 年 4 月入社）について、「採用した」と回答した企業は全産業で前年度調査に比べ 2 割増加し 60%となった。5 年連続して半数を上回り、2 年連続の増加となっている。

採用した企業を業種別で見ると、製造業は 60%で前年度調査に比べ 5 割増加した一方、非製造業は同 1 割減の 59%となった。半数を超えるのは製造業で 2 年連続、非製造業では



5年連続となり、新卒者にとっては県内企業への就職環境は改善傾向を続けていることがうかがえる。

企業の規模別では、従業員100人以上の企業（以下、「規模の大きい企業」という。）で新卒者を採用した企業は前年度調査に比べ4割増の84%だったのに対し、従業員100人未満の企業（以下、「規模の小さい企業」という。）では同1割減の35%にとどまっている。業種別では新卒者採用の状況に差がないものの、企業規模別では積極的に採用した規模の大きい企業と規模の小さい企業の差が2倍以上もあり、前年度調査と同様に格差が浮き彫りとなった。

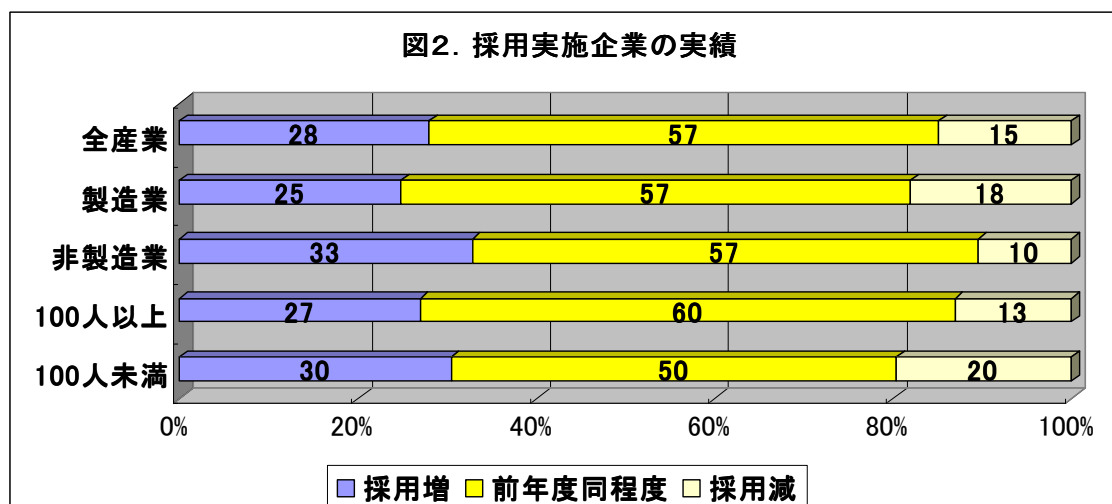
一方、「今年度は採用を見送った」と回答した企業は、全産業で18%と前年度調査に比べ6割増加している。業種別では製造業で17%の企業が今年度の採用を見送り、非製造業では18%と大差がなかったが、企業規模別になると規模の大きい企業の6%（前年度調査7%）に対し、規模の小さい企業では30%（同17%）に上り大きな開きがある。さらに、「（前年度に）引き続き採用を見送った」企業は全産業で22%と前年度調査から8割の減少をみせ、業種別では製造業も非製造業も23%だった。企業規模別では規模の大きい企業の10%に対し、規模の小さい企業では35%とやはり大きな差がみられた。

2008年度の新卒者採用状況をみる限り、全産業では6対4の割合で採用した企業が多かったが、業種別での差はなかったものの、企業規模に分けると違いがはっきりと現れたのが大きな特徴といえる。業績が好調な規模の大きい企業が積極的に新卒者を採用したのに対し、景況感が改善しない規模の小さい企業では2008年度も新卒採用を見送る企業が依然として多い状況が推察される。

（2）採用を実施した企業の実績

～「採用人数を増やした」企業は3割を切る～

2008年度に新卒者を採用した企業に採用人数を聞いたところ、「前年度に比べ採用人数を増やした」と回答した企業は全産業で28%と前年度調査に比べ8割減少している。また、「前年度と同程度」の企業は57%で同6割増加し、「前年度に比べ採用人数を減らした」と回答した企業は同2割増の15%となっている。



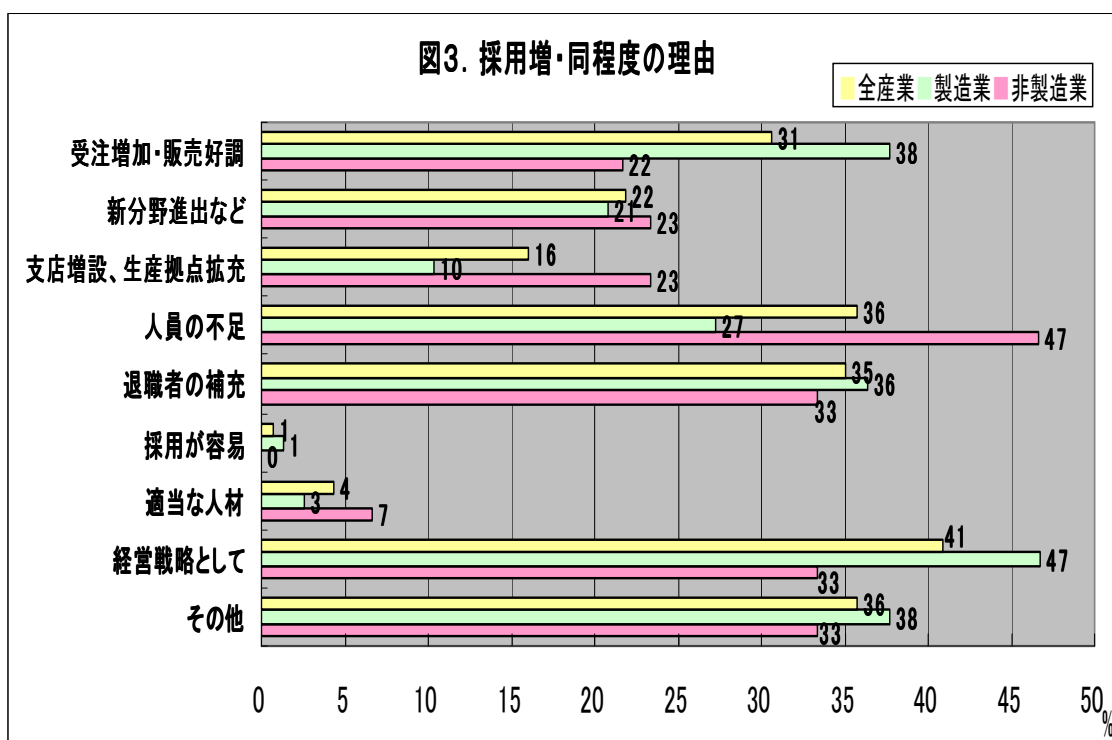
「採用人数を増やした」とする企業を業種別でみると、製造業は25%で同6%減り非製造業も同7%減の33%だった。これに対して「前年度と同程度」との回答は製造業で同4%増、非製造業で同9%増のそれぞれ57%で、景気の先行き不透明感からか業種を問わず現状維持を図る意識が強いようだ。しかし、規模別になるとその意識には差があり規模の大きい企業で60%とさらに強くなる反面、規模の小さい企業では50%と差がみられた。また、「採用人数を減らした」企業では、非製造業よりも製造業で多く、規模の大きい企業よりも規模の小さい企業の方で割合が高かった。

(3) 採用人数を増やした理由（複数回答）

～製造業は経営戦略から、非製造業は人員不足がトップ～

「採用人数を増やした」と「前年度と同程度採用した」と回答した企業にその理由を聞いた結果では、全産業で「経営戦略として」がトップの41%で、次いで「人員の不足」と「その他」が同率の36%で、「退職者の補充」も35%あった。前回調査から質問項目を多少変更したため単純に比較はできないが、団塊世代に代表される中高年の退職者らによる人員不足を招き、新卒者を採用したことがうかがえる。

業種別にみると、製造業では「経営戦略として」が47%でトップだが、次いで「受注増加・販売好調」と「その他」が38%で同率となっている。非製造業では「人員の不足」の47%を筆頭に「経営戦略として」や「退職者の補充」、「その他」が同じ33%で、退職者が出ていることから新卒者を増やしたり、あるいは同程度を採用した傾向が強い。



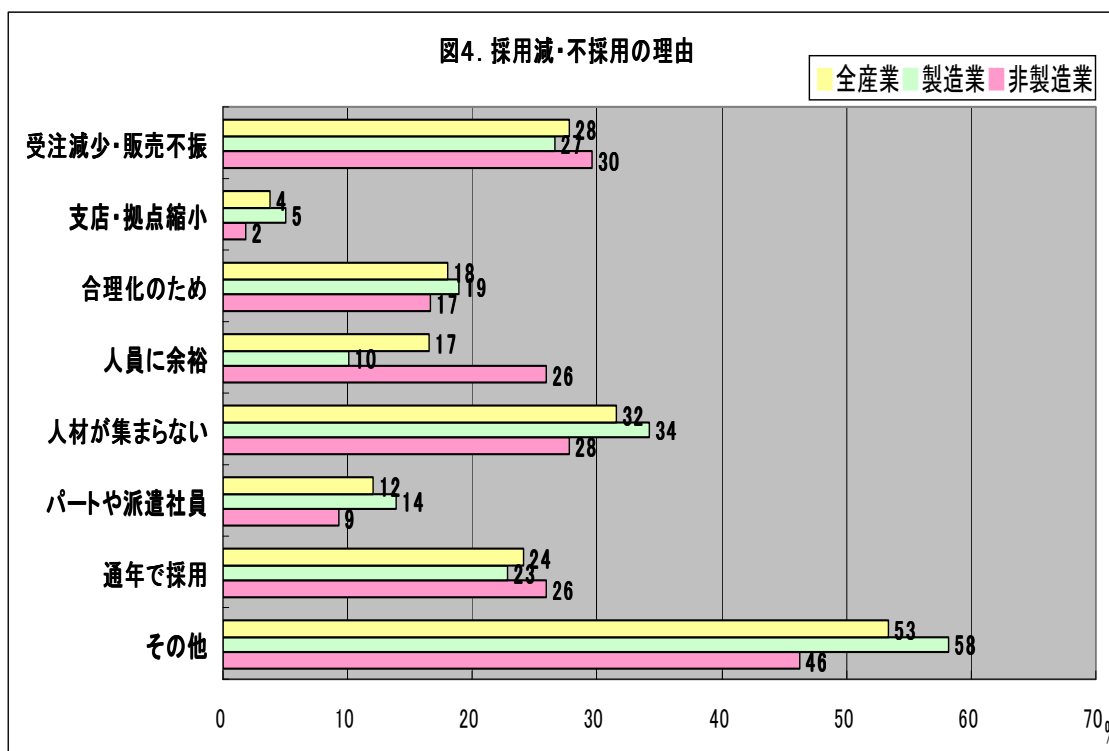
注) 複数回答につき選択肢の合計は100%を超える

全産業、業種に限らず「その他」の回答が目立つのは、今回の調査で新たに追加した選択肢のためで、「その他」のコメント回答欄に寄せられた『品質向上、生産向上』といった意見に代表されるように「経営戦略として」という選択肢に当てはまるような回答や、『若年労働者の確保』などの意見のように「人員の不足」に近いものが多い。中には、『地域雇用の促進』や『業績に関係なく地域の学校のため』という意見もあり、地元を根ざした企業活動を展開している責任感から新卒者を採用している回答もあった。

(4) 採用人数を減少及び採用しない理由（複数回答）

～「その他」の理由がトップ～

「採用人数を減らした」あるいは「採用しなかった」（「引き続き採用せず」を含む。）と回答した企業の理由では、全産業や業種別でも「その他」の選択肢に集中していた。全産業では53%にのぼり、製造業ではさらに多く58%、非製造業でも46%と他の項目理由を引き離している。全産業と製造業で2番目に多かった理由が「人材が集まらない」



注) 複数回答につき選択肢の合計は100%を超えるで、全産業の32%に対し製造業は34%だった。非製造業では「受注減少・販売不振」が30%と2番目にランクし、「人材が集まらない」との理由は28%と3番目だった。「受注減少・販売不振」理由は全産業で28%、製造業でも27%と3番目に多い。

最も多い「その他」の回答意見には、『新卒は採用していない』や『即戦力を重視』との意見にみられるように、定期採用を行わずに人員が不足した場合や良い人材が確保できた時に随時採用している企業が目立っている。しかし、『募集しても人が来なかった』

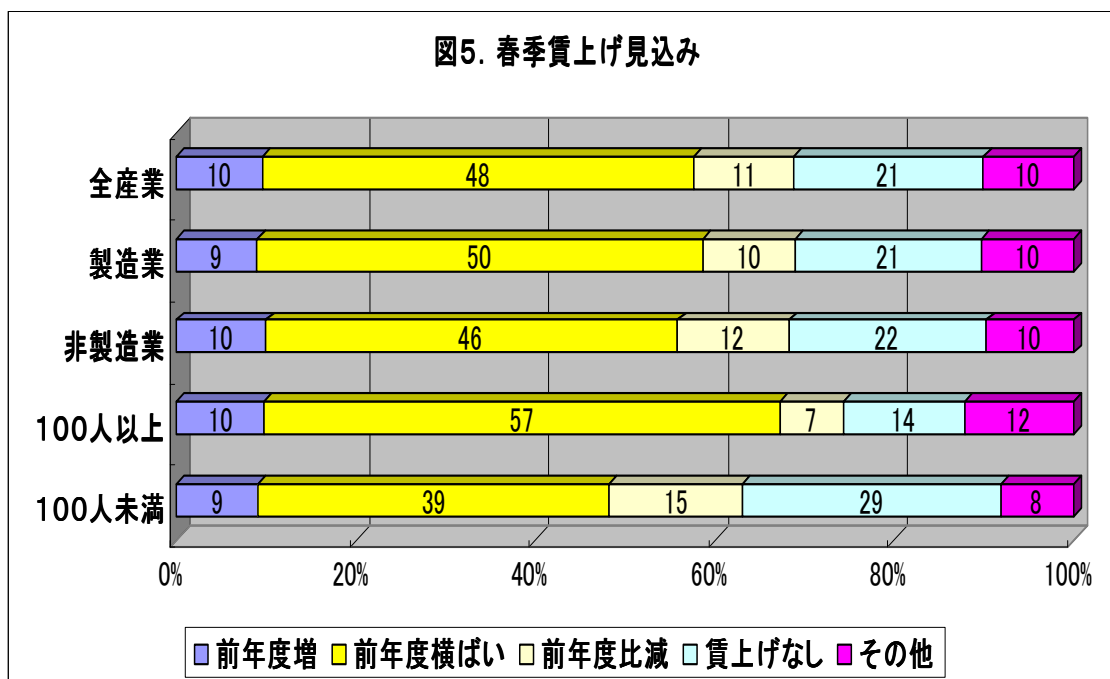
という意見に類する企業も多数あった。

2. 春季賃上げ見込み

(1) 賃上げ実施見込み

～前年度増は約1割の企業にとどまる～

春季賃上げ見込み（定昇込み）を聞いた結果では、前年度より「増加」を予定しているのは全産業で1割にとどまり、業種別や規模別でも1割前後だった。ほとんどの企業が前年度並みの「横ばい」と回答、全産業では48%と半数近くで業種別では製造業が50%、非製造業で46%となっている。規模別では若干様子が異なり、規模の大きい企業の57%に対し、規模の小さい企業では39%と少なく、その分「前年度比減」や「賃上げなし」の回答が多くなっている。「前年度比減」は全産業で11%、「賃上げなし」は同21%で、金額の増減にかかわらず実施見込み企業の割合（全体から「その他」と「賃上げなし」の割合を差し引いたもの）は全産業で69%と前回調査の75%から6%落ち込んだ。最近の原材料高などによる経費増が経営を圧迫し、賃上げ実施に踏み込むことをためらわせていることがその背景にあるようだ。



(2) 賃上げ額及び賃上げ率の見込み

～賃上げ額は4,732円、賃上げ率は2.03%～

県内企業の2008年春季賃上げ見込額（定昇込み）と19年度の実績額を聞いた結果によると、回答した企業の賃上げ見込額は全産業で4,732円、賃上げ率は2.03%（単純平均）だった。業種別では非製造業よりも製造業の方が高く、規模別では規模の大きい企

業よりも規模の小さい企業が金額、率とも上回っている。なお、19年度の実績では全産業で4,889円、1.99%の支給率だった。

表 1. 春季賃上げ見込み（金額・率）と19年度実績

区分	20年度見込額	20年度見込率	19年度実績額	19年度実績率
全産業	4,732	2.03	4,889	1.99
製造業	5,276	2.29	5,531	2.12
非製造業	4,309	1.80	4,343	1.87
規模の大きい企業	4,553	1.97	4,653	2.03
規模の小さい企業	5,037	2.14	5,276	1.90

回答企業 172 社